

## 地震だっ！！～パパ編～



一方パパは、地震のとき、電車に乗っていました。電車が急に止まったので、車内がざわざわしています。「ただいま、地震が発生したため急停車致しました。」と車内アナウンスが流れました。みんなが状況を知ってその場で待機する中、周りをキョロキョロ見渡して、パパに話しかけてくる人がいます…ど、どうやら手話のようです。

「そうか、耳が聞こえないんだな」と分かったパパは、とっさにスマホを取り出し、画面に文字を打ち込んで状況を説明しました。

しばらくしたら、電車は動き出しました。

パパはミウのこともあって、自閉症のことは知っていましたが、耳が聞こえない人のことはあまり知りませんでした。パパは帰る道すがら「色々な人が暮らしているんだな」と思いました。



## 計画事業

身体的なハンディキャップにより情報を収集することができない者に対し、代替手段を用いて情報を提供する仕組みを構築します。また、多様性を認め合う社会をめざします。

## ●情報保障制度の充実 (75 頁)

実施主体：市民・当事者・三浦市・社協

## ミウとママのボランティア体験



ミラは何とかY市の高校に入学しました！余談ですが、ミラは「サッカー部に入ってマネージャーと付き合う！！」と叫んでいます。ママはミラが元気なら…それでいいです。

さて、天気の良い休日、ママはミウと一緒に、海岸清掃のボランティアに参加してみました。ゴミを拾いながら、他のボランティアさんから活動の経験談を聞きました。「マラソン大会の時は、市外から人がたくさん来て、たくさんお土産を買っていってくれて嬉しかった！三浦に活気が出るのがとても嬉しい。」と話していました。

自然の中のゴミ拾いは、意外と清々しかったです。ミウは、海藻をいっぱい拾って楽しそうでした。

帰りにママとミウは、三崎の商店街をブラブラしました。ママはいくつかのお店に「65歳以上15%OFF！」のステッカーが貼ってあることに気がきました。そういえば以前、リビエラ・リゾートが障害児を対象にマリンスポーツ体験会を開いてくれました。参加したミウが「楽しかった」と言っていたのを思い出します。三浦市の民間企業は、社会貢献活動に積極的です。



## 計画事業

CSRとは企業が社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくための活動です。各企業が、各々の事業の特性から、自社の責任や課題を見つけ CSR を自分たちで創り上げていけるよう環境を整備します。

## ●企業のCSRの促進 (76 頁)

## ●環境美化運動の促進 (77 頁)

実施主体：企業・市民活動団体

## 苦情までほったらかしです



ミウは高校を無事卒業し、歩いて行ける地域活動支援センター（地活）に週5日通っています。ミウに地活の様子を聞いてみると、何だかほったらかしにされている様子…。見学した時は、いい雰囲気だったんだけど。地活の職員に電話して様子を伺っても「上の者に伝えます」と連れない返事。どうしたものかな？

ママがエールの斉田さんに相談したら「第3者評価委員会」を紹介してくれました。早速ママは委員会に苦情を伝えました。それでも改善はみられません。ママはミウとも相談し、週2回、就労継続支援B型事業所に通うことを決めました。自力でバス通所できるようになるまで、少し時間がかかったけど「意外と通えるな」とママは驚きました。B型事業所の作業は難しいみたいだけど、お金をもらった日は、コンビニで大好きな香りのするシャンプーを買って帰ってきます。新しくできたお友達とカラオケに行くことも。今までカラオケなんて行ったこともなかったのに…。17年育ててきたけど、ママは驚くことで一杯です。



## 計画事業

事業者やサービス従事者の資質向上に向けた全市的研修等を実施し、サービスの質の向上に向けた取組みを支援するとともに、苦情解決仕組み等を充実させます。

- 福祉サービスの質の確保 (56 頁)
- 苦情解決の仕組みづくり (57 頁)
- セルフ・アドボカシーの確立 (61 頁)

実施主体：市・社協・県・国・当事者

## それ、振り込め詐欺じゃない？！



ミウは新しい生活スタイルに慣れてきました。ミラもトゲトゲの反抗期が終わって、すっかりただの二次元オタクになってしまいました。サッカー部の彼女はあきらめたようです。何だか平和だな～、と思っていたら、明らかにテンパっている祖母から電話が！えっ？パパが痴漢？だって今日はお休みですよ。テレビを観てゲラゲラ笑っています。どうやら、振り込め詐欺の電話があったみたい。危ないところ

でした！祖母はいつも出かけている「高齢者ふれあいサロン」で、警察とボランティア団体主催の「振り込め詐欺対策セミナー」を受講しました。祖母はセミナーで観た寸劇で「私の時と同じだ！」と自分が遭遇した事件とそれを重ね併せたようです。地道な啓発活動が何よりもモノを言います。祖母は早速、電話に振り込め詐欺防止のステッカーを貼り付けていました。



## 計画事業

三浦市・市民・事業者等が一体となって、安心して暮らせるまちづくりの推進に向けた取組みをおこなっていきます。とりわけ、障害者や高齢者を対象とした犯罪を許さないまちづくりを進めます。

- 振り込め詐欺撲滅活動の実施 (62 頁)



実施主体：県・市民活動団体・警察

## まぶしい!! 祖母



何だか、祖母に元気がありません。どうやら振り込め詐欺に引っかかりかけて、気落ちしているみたいなんです。祖父もパパもママも、一生懸命励ましますが、祖母から漏れてくるのはため息ばかり。

いつも通っているヘアサロンで代表に推薦された「ミス&ミスターオーバー70」の大会で、何と祖母がミスコンの準グランプリに輝きました！祖母はすっかり元気を取り戻した様子です。「行く先々でちやほやされるのよ！」と満面の笑み。とにかく外出する機会が増えています。今日も例のヘアサロンに行くんですって。

高齢者が楽しめるまちになってよかったね。



## 計画事業

高齢期における個々の労働者の意欲・体力等には個人差があり、家庭の状況等も異なることから①柔軟な働き方の実現②さまざまな生き方を可能とする新しい活躍の場の創出③シルバー市場の開拓と活性化をめざします。

- 高齢者パワーの活用 (45 頁)
- 市民・民間が支える高齢者の居場所づくり (46 頁)
- 生きがいとなる活動の継続・発展 (46 頁)
- シルバー市場開発モデル事業の実施 (47 頁)

実施主体：三浦市・市民活動団体・企業・社協・当事者

## 今度は祖父に…

ミラは私立の大学に受かりました！ママもますますお仕事頑張ってる稼がなきゃ！ミウは相変わらず、大好きなカラオケによく行っています。何と、「フクシ君」という3つ年上の彼氏ができたんですって。このことに、パパは少なからずショックを受けたみたいです。「にっこにこ」の催し「父親の会」に参加したパパは、打ち上げの飲み会でも、ずーっとその話をしていたみたい。祖母も元気です。

ただ、先月祖父が、庭木の手入れの最中梯子から落ち、骨折してしまいました。病院のケースワーカーに勧められ、介護申請すると、要介護1と認定されました。「早く家に帰りたい。」と祖父は言っています。「そうですね、お家に帰りましょう。」そう言って、祖父の背中を押してくれたのは、居宅介護支援事業所「アンド」のケアマネジャー、石渡さんです。石渡さんは、早速理学療法士や一級建築士、看護・介護スタッフ、福祉用具レンタル業者らとチームを組み、祖父が在宅復帰するための環境整備をしてくれました。友愛チームも祖父母の家を訪問してくれます。祖父自身、相当りハビリを頑張ったらしく、杖をついて歩けるようにまで回復しました。



## 計画事業

在宅福祉を重視した介護保険事業の推進を実現すべく、地域包括ケアシステムの確立を急ぎます。

- 介護保険事業の充実 (39 頁)
- 地域包括ケアの推進 (40 頁)
- おかえりなさいプロジェクトの展開 (44 頁)

実施主体：社協・三浦市・事業者

## 生活するって難しい



ミラの大学は遠いので、一人暮らしを始めました。奨学金をもらいながら何とかやっています。時の流れは速いですね。このところ、特に不安に思うのが、ミウの将来です。自分じゃゴミの分別もできないし、バランスのいい買い物だってできない。そもそも、お金を通帳から出せるのかしら…？

気になったので、エールの斉田さんに相談しました。斉田さんは「これで全てが解決できるわけではありませんが…」と前置きして、「利用者さんの気持ちに寄り添って、契約などモノゴトの決定をサポートする『成年後見事業』や、生活費の出し入れなどをお手伝いする『日常生活自立支援事業』がありますよ。」と教えてくれました。まだママが若いからいいけど、将来は利用したいなあ。ふと、ミウに「ママが死んだらどうする？」って聞いてみました。「ママ死なない」とミウ。ママは泣きそうになってしまいました。グループホームの設立に向けて「にっこにこ」の活動を頑張ろう！とママは強く思いました。



## 計画事業

誰もが、自分らしく生きていけるよう、人間の尊厳が最大限守られる社会の実現をめざします。

## ●権利擁護事業の推進 (58～60 号)

①成年後見制度の普及促進②日常生活自立支援事業の充実③虐待防止対策の充実

## ●グループホーム設立に向けた活動の実施 (50 号)

実施主体：市民活動団体・三浦市・社協

## ミウ 24 歳、ミラ 22 歳



ミラはそろそろ大学を卒業します。歴史民俗学専攻だったのに、「三浦に戻って、無農薬農家になる！」と言っています。どこまで本気か分かりませんが、生きているならそれで結構です！もしかしたらミウのために時間が自由になる自営業を選んだのかも知れません。

ミウには「ママは、いつまでもいな

いのよ」と言って、少しずつ将来のことを説明しています。以前は「ママ死なない」の一点張りだったけど、今は、どうしていいか分からないような困った顔で「うん」と返事をします。

将来のことはママにも、わかりません。けれど、パパやミラ、そして、地域の皆さんと協力して、ミウが暮らしやすい“まちづくり”を実現したいと思います。



## おわりに

パパ、ママ、ミウ、ミラは、この後幸せに暮らすことができましたでしょうか？

「ミウ家族」のために行動できる地域住民が一人でも増えれば、きっとそうなると思います。私たちはこう考えます。「ミウ」の暮らしやすい“まち”は、誰にとっても暮らしやすい“町”なのだ。福祉の問題は決して対岸の火事ではありません。私たち一人ひとりと密接に関連したごくごく身近な問題なのです。